

風紋

vol.85 2025 / Spring

鳥取大学広報誌 FU-MON

特集 座談会

自ら輝き、魅力あふれる 大学を目指して!



注目の
研究

ポリヒスチジンを利用した
新たな農作物ゲノム編集技術

私たちの
研究室

地域学部地域学科国際地域文化コース
考古学研究室

トリカッ!

邦楽友の会
和楽器の音色に、私たちの感性をのせて

とりんの
授業潜入
レポート

授業の様子をご紹介します!



読者アンケートにご協力いただいた方へ
プレゼントが当たる!

今後のよりよい誌面作りのために、皆様からのご意見や
ご要望をお待ちしています。アンケートにご協力いた
だいた方の中から抽選でプレゼントを進呈いたします。

アンケートのご回答はこちらから

プレゼント応募締切 | 7/31(木)

※ご記入いただいた個人情報はプレゼントの発送以外には使
用いたしません。また、当選者の発表は、発送をもって代え
させていただきます。



鳥取大学
オリジナル
A4トート
バッグ

抽選で
10名様

果てしなきモノづくりへの挑戦は続く...

SENDAI
SENDAI ENGINEERING CO.,LTD

株式会社 千代エンジニアリング

■本 社
鳥取県鳥取市商栄町160-7
TEL 0857-24-7717

■加工工場
鳥取県鳥取市商栄町160-15

測る、創る、診る
～技術で地域を支えます～



西谷技術コンサルタント株式会社
Nishitani Engineering Consultant Co.,Ltd.



鳥取大学の をつぶやいています! /
鳥取大学公式 Facebook & X & Instagram

とりんが大学のイベント情報、学生活動、
キャンパスの様子などを随時発信中!



◀ソーシャルメディア一覧

<https://www.tottori-u.ac.jp/about/public/sns/>



ICTソリューションで
DX社会を創る

～安全・安心・快適で持続可能な未来のために～

鳥取で、世界最先端の
ソフトウェア開発にチャレンジ!

鳥取西菱電機株式会社

鳥取市東品油町102 鳥取駅前ビル5F TEL.0857-29-6741
とっとりせりようでんき 検索

風紋のバックナンバーは
こちらから

鳥取大学広報誌 検索

<https://www.tottori-u.ac.jp/about/public/bulletin/fumon/>



鳥取大学に関するお問い合わせ

■入学試験	0857-31-5061	■研究・産官学連携	0857-31-5608
■公開講座・社会貢献	0857-31-6777	■学生・学生生活	0857-31-5053
■授業料納入	0857-31-5029	■学生就職支援	0857-31-5456

その他はホームページ <https://www.tottori-u.ac.jp/contact/univ/> をご覧ください



鳥取大学
Tottori University

編集発行 / 広報委員会広報誌編集専門委員会

2025年6月発行

松村一善(委員長・農学部) 阿部 哲(地域学部) 加藤雅彦(医学部) 本宮潤一(工学部) 山崎由理(農学部)
崎原麗麗(教育支援・国際交流推進機構) 北 実(研究推進機構) 谷口美也子(地域価値創造研究教育機構) 門脇幸見(総務企画課)

〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南4-101 TEL.0857-31-5006 FAX.0857-31-5018
[E-メール] toridai-kouhou@ml.adm.tottori-u.ac.jp [ホームページ] <https://www.tottori-u.ac.jp/>

自ら輝き、魅力あふれる 大学を目指して!

特集 座談会



農学部

あかし きんや
明石 欣也 学部長

1968年山形県生まれ。京都大学農学部農芸化学科卒業、同大学院農学研究科博士課程修了、博士(農学)。96年フランス国立農業研究機構研究員。奈良先端科学技術大学院大学助教を経て、2012年鳥取大学農学部准教授、16年教授。23年より現職。専門は乾燥地植物の分子生理学。



工学部

いわい よしお
岩井 儀雄 学部長

1969年愛媛県生まれ。大阪大学基礎工学部情報工学科卒業、同大学院基礎工学研究科物理系専攻修了、博士(工学)。大阪大学助手、助教授、准教授を務める。2004年英国ケンブリッジ大学客員研究員。11年鳥取大学大学院工学研究科教授。25年より現職。専門は画像処理やパターン認識。



医学部

ながしま ひでき
永島 英樹 学部長

1963年島根県生まれ。鳥取大学医学部医学科卒業、同大学院医学研究科外科系専攻修了、博士(医学)。98年米国マイアミ大学医学部客員教授。2013年鳥取大学医学部教授。病院長特別補佐、副病院長を歴任し、25年より現職。専門は整形外科、サプスペシャルティは脊椎外科。



地域学部

しおのや ひとし
塩野谷 斉 学部長

1963年宮城県生まれ。東京大学教育学部教育学科、教育行政学科卒業。同大学院教育学研究科修士課程修了、博士課程単位取得。山口短期大学、浜松短期大学等を経て、2004年鳥取大学着任。11年地域学部教授。特別支援学校長、幼稚園長、地域学部副学部長を歴任し、25年より現職。



学長

はらだ たくしゅ
原田 省 学長

1958年兵庫県生まれ。鳥取大学医学部医学科卒業、同産科婦人科学教室入局。85年英国リーズ大学留学。鳥取大学助手、講師、准教授を経て2008年より教授。婦人科医療の研究・治療に大きく貢献、ロボット手術も手がける。副病院長、病院長、副学長、理事を歴任し、25年より現職。

この4月、新しく原田省学長が誕生した。また、地域学部・医学部・工学部も学部長が新任となっている。そこで新体制での座談会を開催、本学が目指す教育や研究の在り方、地域との関わりなどについて語り合ってもらった。

座談会の冒頭、原田学長は「自ら輝き、魅力あふれる鳥取大学にしたい」と、目指す本学の姿を示した。鳥取という地方にあるが、本学は「知と実践の融合」という基本理念のもと、実学を中心に知識を深め、理論を身に付けつつ、実践を通して身近な地域の問題から地球規模の課題解決へと展開し、世界をリードする研究を行っている。こうした知の資源が“次々と湧き出している大学”を思い描き、研究者や学生が力を発揮できるよう後押しすることを所信として述べ、意見交換がスタート。多角的な意見が交わされたこの座談会を通じて、新章の幕開けのムーブメントを感じてほしい。

自然、人、地域に触れ、 鳥大でしかできない学びを

「知と実践の融合」を 推進する人材育成の 特色と強みとは

原田 本学の教員も学生も非常に真面目に、かつ確実に実績を積み上げています。地味かもしれないけれども、ある意味それがうちのキャラクターであり、強みだと思っています。人口最少県ではありますが、それだけに人と人の距離が近い。地域のステークホルダーの方とも会おうと思えばすぐに会えるし、コミュニケーションがとりやすい。都市部では難しいことがいとも簡単にできるのいいところ。基本理念である「**知と実践の融合**」に、大いに生かせると考えています。

では学部長の先生方から、それぞれの教育の特色、強みを教えていただけますか。

永島 医学部は開設以来多くの医療者を輩出し、山陰地方の医療を担っているのが一番の特徴ですね。そして1990年には日本で初めて生命科学科が開設されました。細胞生物学や分子生物学など生命科学の基礎科目とともに医学系科目を幅広く学修した研究者を育成しており、染色体工学や遺伝子工学を駆使した最先端の研究、創薬に関するトップクラスの研究を行っています。

塩野谷 地域学部は、本学において唯一の文系学部です。「地域学」というところにアイデンティティを持って取り組んでおり、法学であったり政治学や経済学であったり、教育学や心理学、あるいは文学と学際的で、ある意味「何でもあり」。いろんな考え方、手法で地域に貢献していける。地域のニーズはひとところにはありません。様々な場面で大学との連携を望んでいます。いろんな形で関わるができる、そういう人材の育成に力を注いでいます。

明石 前身である鳥取高等農業学校の創設から数えて、農学部には100年を超える歴史があります。初代校長は植物病理学の権威で、梨の病気の克服に貢献し、鳥取県の産業を支える一つとなりました。また、広大な鳥取砂丘から広がる砂地での農業を確立するこ

礎的な数学とプログラミングの知識を習得すると同時に、機械学習、ビッグデータ、データ分析などを幅広く学んでもらい、各分野での課題解決につながる基礎知識を修得できる構成となっています。

原田 ありがとうございます。「知と実践の融合」を具現しようとしていることがよく分かりました。

私は入学式の式辞でも学生に伝えたのですが、学生時代にベンチャー、あるいはスタートアップなどの起業にチャレンジしてほしいと思っています。先生方は「学生にぜひこんな経験してもらいたい」ということが何かありますか。

明石 農学部は、講義棟のすぐ近くに農場があるというのが全国でも珍しいことで、一年を通じて水稲、畑作物、花卉、果樹などの生産から流通までを体験できます。地元生産者と触れ合う機会もありますから、それを基本の一つとしてやってもらいたいですね。

岩井 鳥取でしか味わえない自然の良さがありますよね。大阪から鳥取へ来たとき、空に雲が筋状にバーツと立ち上がっているのを見て、「これが『八雲立つ』か!」と思いました。スサノオノミコトが詠んだ日本最古の和歌の一節「八雲立つ」というのがそれまでは想像がつかなかったんですが、山陰の豊かな

とが大きな使命で、それが乾燥地研究へとつながっています。

それから農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センターが保有する国内最大級のコレクションを活用した菌類資源科学の研究・教育も他にはない特色です。そして共同獣医学科ですが、獣医学が学べる国立大学は全国に10校しかなく、中国地方では山口大学と本学のみです。牛馬の育成が盛んであった歴史的背景から設立されましたが、現在では高病原性鳥インフルエンザなどの研究も手がけており、流行防止対策に貢献しています。

こういった特色のある専門分野を学びたい、研究に携わりたいと都市部から本学を志す若者が数多くいますので、ロマンを持って入学してきた学生に花を咲かせてやりたいですね。

岩井 工学部も、いろいろな分野がそろっているのが最大のメリットです。分野横断的に学べるよう4学科の中に高度専門教育用の15教育プログラムを置いており、自分のキャリアパスを考えながら2年次に選択、履修します。

また、「数理・データサイエンス・AI応用基礎プログラム(工学部)」を行っています。これはデジタル時代に不可欠な学びであり、昨年8月に文部科学省の認定を受けたプログラムです。基

自然によって理解できたという経験があります。

永島 ここに来ないといけない、味わえないものがあるということですね。医学部の場合、医学科、保健学科は医師や看護師、保健師、検査技師といった医療者を育てないといけませんので、勉強だけでは足りない。学生同士、あるいは地域の方と交流して「人間力」を磨いてほしいと思っています。

原田 医療者は毎日人と接するし、人を癒さないといけない仕事。人と人のつながりが大事ですからね。

岩井 私も入学式で「よく学び、よく遊べ」と伝えました。機械学習も、過学習になるとパフォーマンスが落ちるんですよ。ある程度遊びがないと新しいことに対応できないので、学生に「学習し過ぎてはいけない」と言うこともありますね(笑)。

研究の価値を高めるために 必要な支援と 戦略的な活用とは

原田 もう一つ、大学の大きな役割として研究があります。研究者は実験や観察、調査を行い、考察を重ねて真理を追究します。その成果として論文を作成して世に出すわけですが、例えば

複数の研究者が同じような研究をしていたとしても、全く異なる価値を持たせて、効果的に外へ出したいと私は考えています。

それを担っているのが、**URA(リサーチ・アドミニストレーター)**です。研究シーズを産官学連携による社会実装へとつなげるのが彼らの役目ですから、URAをもっと増やし、本当に活躍できるような状況に整えたい。そうすることで研究が世の中に認められ、研究費獲得やスタートアップにつながるなど、必ず研究者に返ってくるものがあるはず。研究のモチベーションが上がるような形を目指したいと考えています。

本学で研究する強み、あるいはどんな研究支援が必要か、先生方から何かありますか。

明石 農学部はURAにあまり馴染みのない教員が結構いるんですよ。研究のどの段階でコンタクトをとって連携するのがいいのか、農学部なりの流れをつくって、地域貢献や社会実装などにうまくつなげていきたいですね。

永島 医学部や附属病院は、お互いの垣根が意外と低くて、皆で一緒にやっていこうという意識が結構あります。複数の専門分野・診療科で共同研究や診療に取り組んでいます。ただ、学部内で研究のプレゼンを聞く機会はある

んですが、そこで止まっているんです。担当者を付けて、研究のペアリングをしてもらおうかと考えることがあります。

学部を超えた連携では、農学部の持つ菌類きのこの遺伝資源からの創薬、工学部との人工染色体関連、医療機器開発など様々な分野で連携しています。

岩井 2023年4月からは「工学科プログラム」がスタートして、工学科の機械物理系・電気情報系・化学バイオ系の3学科に医学と連携した教育プログラムが設置されましたね。これからどんどんメデイカルエンジニアリングを進めていきたいと思っています。

塩野谷 地域学部は、地域に密着し、地域に貢献できる研究をどうやっていくかが大きなテーマ。昨今、18歳人口が減って定員割れの大学が増えています。特に苦しいのは地方大学や私立大学ですが、その生き残りの鍵はやはり「地域」なんですよ。科学研究費の採択も大事な評価要件ですが、費用があまりかからない研究もあり、他学部に比べるとそこがなかなか難しい。どういう研究をしているかという点を重視し、支援していただけたらありがたいですね。

原田 文系と理系は少し違いますよね。文系はペン1本で生み出すことができる。しかし、理系は実験しないと

既に様々な研究がなされています。

原田 それは医療にも近いお話ですね。

岩井 はい。少子高齢化の問題では自動化技術があります。ロボットの導入だけでなく、私手がけている研究では、アバターに人の変わりをさせる技術も導入できればと考えています。

原田 面白いですね。農学部は？

明石 農学部には本学出身の先生がかなりいますし、県内の自治体にも卒業生がたくさん入っています。日頃から農業に関する様々な相談を受けていて、共同で課題解決に取り組む良い循環があります。

しかし学長がおっしゃっていた起業については、これまでに例が少ないんですよ。農業・食品・環境といったところではポテンシャルがあるし、最近では学生の農業サークルがいっぱいあるので、そういうところから起業につなげていくということもあるのかなと。

原田 芽があれば、それを育てるよう

いけなくて、高価な実験器具や試薬などを購入しないといけない。工学部もそうでしょう。

岩井 材料がいりますし、計算したら計算料が発生します。近頃は何でもかんでもAIなので、計算資源を確保しないといけないと感じています。計算マテリアルとか、計算化学など、コンピュータである程度の構成物や材料の予測を立てた上で設計するという方式がどんどん進んでいるんです。「計算資源を持っている者が勝つ」という状況になりつつあるので、積極的に外部予算を集めて、学部内に計算サーバーを入れて環境を整えたいですね。

飛躍を目指して共に歩む 地域との関わりは どうあるべきか

原田 地域に根ざした大学として、特色を生かした取り組みを展開している本学ですが、地域から何を求められているか、この鳥取県にどれだけの貢献ができるかということが大きく問われています。

今年度から、「**地域未来共創センター**」という地方創生の拠点がスタートしました。これまで本学の地域価値創造研究教育機構がやってきた地域活性

なシステムを早速につくりたいですね。地域学部はやはり教員養成でしょう。

塩野谷 はい、県内で注目度が高いのは教員養成です。私たちは、本学開学の礎である鳥取師範学校からの流れを強く受け継ぎながら、いわゆる教育学部に負けないくらい教員養成をやっているという自負心を持っていました。むしろ、マスでやっておらず、学生との距離が近い、良い養成をやっているつもりだったんですが……。

原田 世間には知られていなかったですね。

塩野谷 そうですね、そこが反省点です。私たちがここにいるのは、やはり教育の賜です。人づくりをしないと地域の発展はない、まずは足下から、ということですね。

私が考えるのは、鳥の目と虫の目。鳥の目で物事の全体を俯瞰しながらグローバルに考え、虫の目のように自分の足下を見て、それを大切にしながら地

元で教員をやりたいという人材を育てる。そんなメッセージで教員養成をアピールしているところですし、力を入れてやっていきたいと思っています。

永島 医学部も医療者の養成、医師の派遣などで地域医療に貢献していますが、都市部へ出る人が多くなっており、鳥取に残ってもらう方が多く行政と話し合っているところです。私たちくらいの年齢になってくると、鳥取県の豊かさが分かってくるんですけどね。

それから、とっとり創薬実証センター、とっとりバイオフロンティア、新規医療研究推進センターといったところが企業と連携して創薬や医療機器開発などを手がけていますし、バイオベンチャーを起ち上げているところも我々の地域貢献です。

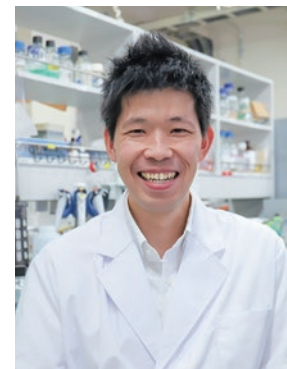
原田 ありがとうございます。4学部長からの様々なお話を伺うことができる貴重な機会となりました。力を合わせて鳥大を盛り上げていきましょう。



鳥取県全部をキャンパスに 地方創生の機運を盛り上げたい

注目の研究

ポリヒスチジンを利用した 新たな農作物ゲノム編集技術



いwasaki たかし
岩崎 崇 准教授
農学部生命環境農学科

専門 ペプチド化学／細胞生物学
趣味 釣り／キャンプ／マラソン

現在のゲノム編集技術を使った農作物の品種改良は、遺伝子組換え技術を利用することによる大きな課題が存在しています。そこで細胞膜透過ペプチド「ポリヒスチジン」を利用したゲノム編集酵素を開発し、遺伝子組換え技術に頼らない手法の開発に成功しました。

特定の遺伝子の変化を 誘発するゲノム編集

「ゲノム編集技術」は、生物の設計図であるゲノム（遺伝情報）の特定の部位を切断したり、置き換えたりすることで生物の機能を改変する革新的技術です。医療や創薬、農業、水産業など幅広い分野で注目を集め、農業の分野では、長い年月がかかる品種改良をゲノム編集技術によって短期間で効率良く行うことができますと期待されています。

品種改良は、遺伝子の修復ミスによって引き起こされた突然変異を利用しますが、どんな性質が現れるかは偶然に頼っています。ゲノム編集技術は作物の性質に関与するDNAをピンポイントで狙い、自然に起こり得る突然変異を人為的に誘発できるので、例えば、『酸味を強くする遺伝子が働かないようにして酸味を抑えた果物をつくる』といったことも可能になるわけです。

遺伝子組換え技術に頼る 農作物ゲノム編集

現在のゲノム編集技術は、DNAを切断するハサミ役のゲノム編集酵素である「Cas9（キャスナイン）」を細胞内に導入し、標的の部位を欠失・置換

細胞内にCas9を届ける Cas9-H20の開発

この現状を打破するために私たちが目を付けたのが、独自に発見した細胞膜透過ペプチド「ポリヒスチジン」です。ポリヒスチジンは、アミノ酸の一種であるヒスチジンを複数個つなげた化合物（ペプチド）で、狙った細胞内に薬

などを届ける高い輸送能力を持ち、植物細胞の細胞壁と細胞膜も通り抜けることができます。

ポリヒスチジンは、ヒスチジンのつながる数によって輸送能力が変化します。ヒスチジンのみが20残基連続した「ポリヒスチジン（H20）」は、独自に開発した新しい細胞膜透過ペプチドで、タンパク質を細胞内に輸送できる有力

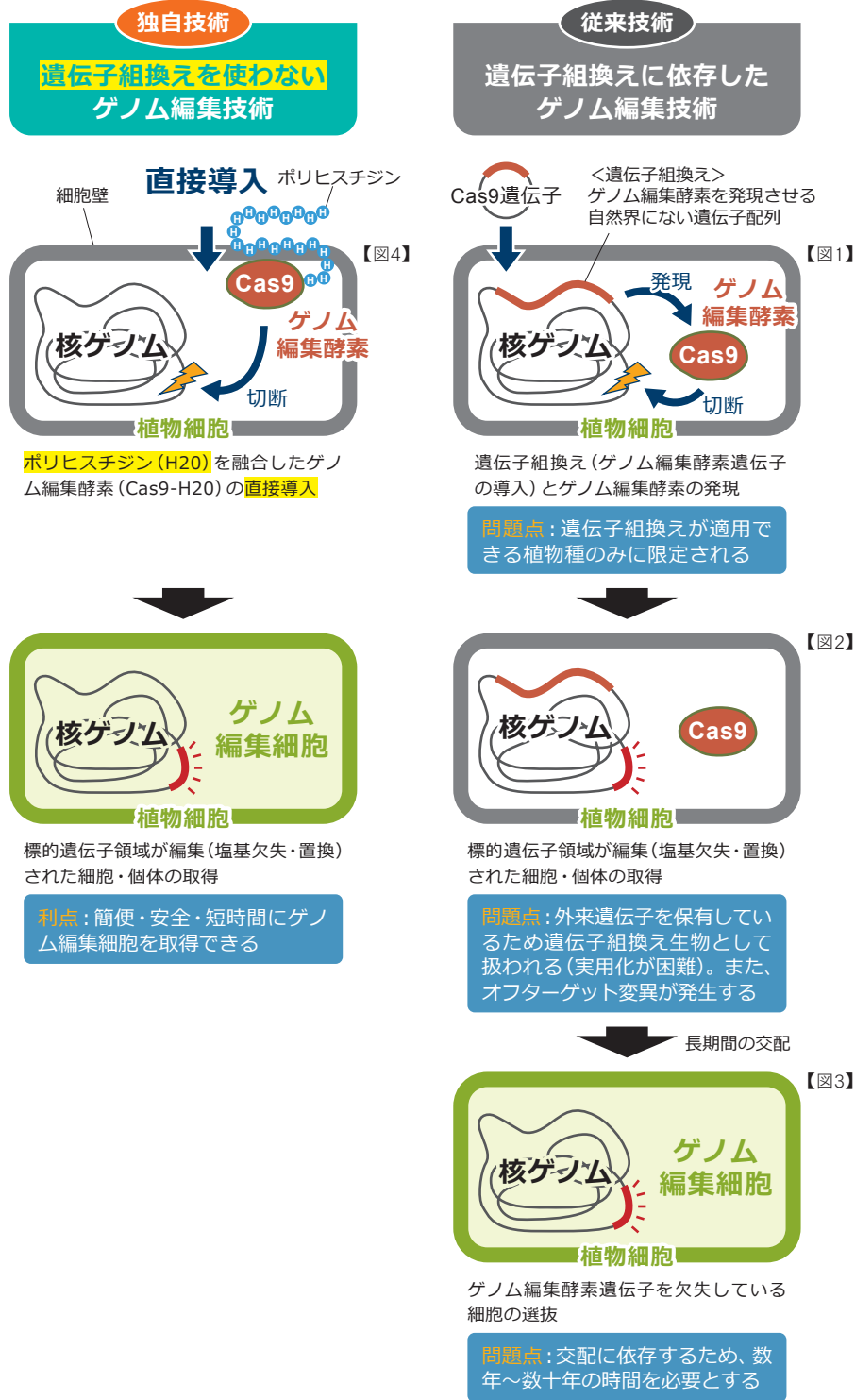
なキャリアー（運び屋）です。Cas9などの酵素はタンパク質の一種であり、ポリヒスチジン（H20）を利用することで、遺伝子組換え技術を使わずにCas9を植物細胞内に直接導入できるようにになりました（図4）。これまでに、ポリヒスチジン（H20）を融合したゲノム編集酵素「Cas9-H20」を使い、スギ、タバコ、イネなどの植物細胞のゲノム編集（塩基欠失）を誘導することに成功しています。

食料問題、環境問題など 幅広い分野への利用を期待

Cas9-H20を利用した技術は、遺伝子組換え技術を使わないので様々な植物種への利用が可能です。従来の遺伝子組換え技術を利用した方法と比べて劇的に簡便であり、特殊な設備も必要ありません。Cas9遺伝子が残存する可能性も皆無なので遺伝子組換え生物として扱われる心配はなく、Cas9は細胞内で数日で分解されるのでオフターゲット変異のリスクも大幅に軽減されます。

ただし、Cas9がすぐに分解されていなくなってしまう分、従来の手法と比べて成功率が低いことが大きな課題です。この課題をクリアできて初めて、社会実装が可能になると考えています。

Cas9-H20を利用した農作物のゲノム編集技術が実用化できれば、これまでの遺伝子組換え技術に依存した手法の諸問題を克服できる可能性があります。食料危機問題の解決や、二酸化炭素吸収に優れた性質を持つ作物の開発など、幅広い分野に役立つ技術を生み出したいと考えています。





ふくい あらた
福井 新大 さん

地域学部地域学科
国際地域文化コース 3年（取材時）

研究
1

「分からない」からこそ興味が尽きない

2年生の時に「地域調査プロジェクト」の発掘調査で本物の埴輪の欠片に触れ、「遺物って面白い」と考古学に興味を持ちました。考古学は「モノ」から歴史を復元しますが、遺物の用途や目的が分からないことは珍しくありません。鳥取県は調査が進んでいない地域なので分からないことだらけなのですが、そこが面白いと言えます。フィールドワークの発掘調査では、ほぼ完全な状態で須恵器を発見したり、予想したポイントから遺構が出土したりと、貴重な経験ができて

うれしかったです。

考古学の研究の中心は近畿地方ですが、卒業論文では、県内の須恵器の形状の変遷が近畿地方と同様なのか検証を試みています。考古学を学ぶようになってから、論文に書いてあることを鵜呑みにせず違う視点から探るようになり、思考を深める姿勢が身に付いたと感じます。



くらみ こたろう
倉見 鼓太郎 さん

地域学部地域学科
国際地域文化コース 3年（取材時）

研究
2

専門の講義やフィールドワークが面白い！

鳥取大学に入学した当初は様々な分野に興味があり、専門を決めていませんでしたが、発掘調査には以前から憧れがありました。2年生の時に「地域調査プロジェクト」で大学構内にある「大熊段1号墳」の調査に参加して、2週間かけて1.5mほど掘り下げたのですが、地層の変化が目に見えて分かり、埴輪の欠片などの遺物も出土して「古墳のことを詳しく知りたい」

と考古学研究室に入りました。

専門的な講義は義務教育とは違って非常に興味深く、またフィールドワークでは遺跡へ出かけ、古墳内部の埋葬施設である石室を実際に調査することができました。

鳥取県内の古墳の石室は学術的な調査が未開拓のものが多く、卒業論文では古墳時代（6世紀頃）の横穴式石室をテーマに、墳丘の形や埋葬品などの特徴的形態を探りたいと考えています。



地域調査プロジェクト

発掘調査



1

調査区域の設定

2～3週間の調査期間に合わせた発掘調査のエリアを決める。

2

遺構を掘り下げる

遺跡に堆積した土を人力で丁寧に掘り下げ、土の色や質の違いから建物跡や溝などを探る。遺構を検出したら、移植ごてやヘラで掘り下げる。出土した遺物は、出土状況を確認しながら掘り出す。



3

全景撮影

調査区域を撮影し、遺構の形や遺物の出土状況などを写真に記録する。



6

遺物を洗浄、復元し、発掘調査報告書を作成

出土した遺物は洗浄し、破片を組み合わせるパズルのように復元。発掘調査報告書をまとめる。



地域調査プロジェクトの発掘調査では、現地説明会は行わず、随時一般公開。（要問合せ）

5

発掘現場を埋め戻して撤収

発掘時に掘り出して土のう袋に保管していた土を敷設して遺構を埋め戻す。



4

割付図や実測図などの図面作成

遺構の測量図やどこから何が出土したのか、堆積土の順序などを記録する。



私たちの
研究室

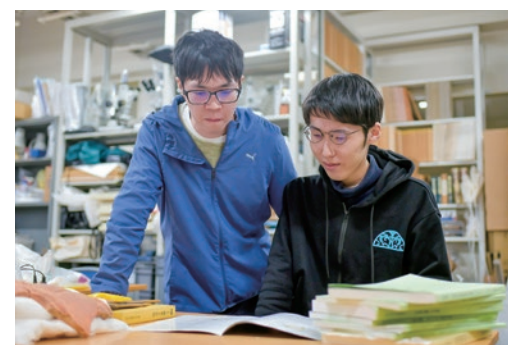


地域学部 地域学科 国際地域文化コース

考古学研究室

高田 健一 教授

あらゆる視点で「モノ」を検証し、時代を探究する



考古学は遺跡から発掘された遺構や遺物などの「モノ」から、その時代の人々の暮らしを探究する学問だ。考古学というと、エジプトのピラミッドや古墳時代の埴輪など、千年以上昔を思い浮かべるかもしれないが、対象とする時代は人類誕生から近代までと非常に幅広い。

所属する学生は、2年次の必修科目「地域調査プロジェクト」で、鳥取大学構内にある古墳を発掘調査したことがきっかけで興味を抱くようになり、この研究室を選択したという人が多い。卒業論文に向けて、3年生は約1年かけて興味のある時代や分野を絞り込み、テーマを決める。考古学の手法を用いるのであれば、時代や題材は自由。過去には、釣り好きが高じて釣り針を調べた学生や、子どもが好きで昔の子どもの生活を探った学生などがあり、個性が光る研究は興味深い。

毎年、鳥取市近郊を中心とした実際の遺跡を調査するフィールドワークも行っている。県内の遺跡は、存在は知られていても詳しく調査されていないものがあり、土器などを見つけたり新しい可能性を発見したりと、現場で得られる経験と学びは数知れない。

発掘された遺物には、何のために、どのように使われていたのかよく分からないものが多く、あらゆる視点で検討し、時には逆転の発想も必要とする。ステレオタイプに捉われない思考法は、卒業後に考古学とは別の分野に進んだとしても社会で役立つスキルだ。

＼直近5年以内の／ 卒業生の主な進路

【進学】名古屋大学大学院

【就職】中学校教諭（鳥取県）、公務員（鳥取市、広島県、山口県）、富士電機（株）、東武トップツアーズ（株）、（株）オダケ、（株）トーモク、（株）コスモス薬品

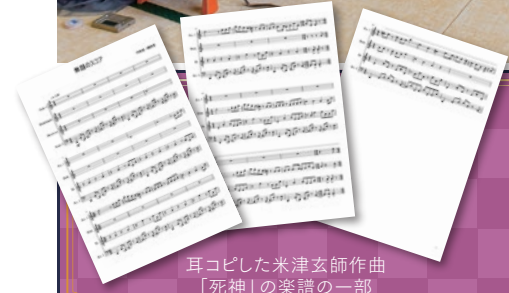


CHECK THIS OUT!

鳥大生の活躍を紹介します

邦楽友の会

トリカツ!



耳コピーした米津玄師作曲
「死神」の楽譜の一部

欲しい楽譜は自作します!

現代邦楽曲やポップスは和楽器の楽譜が制作されていないので、演奏したい曲があればサークル内で楽譜を一から作っています。既にあるピアノ

やフルートなどの楽譜を和楽器用に改変したり、音感がある人は音源から音を拾って譜面に書き起こしたりしています。



夏の演奏会「浴衣会」

冬の演奏会「風花会」

風紋祭



和楽器の音色に、私たちの感性をのせて

音を出すことすら難しい
だからこそ面白い

箏や三味線、尺八、篠笛などの和楽器の演奏サークル「邦楽友の会」は、設立年こそ不明だが、56年前の部員名簿が今に残るほどの歴史は古い。近年は毎年20名前後の部員が在籍し、年2回の定期演奏会や鳥取大学風紋祭などで演奏を披露している。

部員のほとんどが未経験からのスタートだが、中学校・高校の吹奏楽部やピアノなど何らかの音楽経験を持つ人が多い。尺八を担当する部長の服部東陽さん(工学部2年「取材時」)も、高校時代は吹奏楽部だった。「和楽器はある程度の技量が必要。尺八なんかは管楽器経験者でも音を出すのが難しい。でもそこが面白い」と魅力を語る。

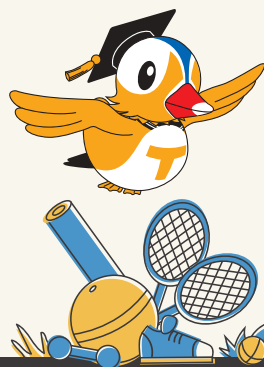
漢数字やイロハなど独特の記号が並ぶ譜面も、慣れないうちは難解だ。五線譜に書き直したり、耳で聞いて覚えたりする部員もいる。弦を押さえる位置や音の出し方、合奏のリズムのつかみ方などに悪戦苦闘しながらも、「練習した分だけ上達できる」「好きな曲に挑戦したい」と練習に励む。活動日は月・火・金・日曜日の週4日。指導者はおらず、先輩が後輩を教えるスタイルで、大らかな雰囲気なのもいいところだ。

古典曲から最新ポップスまで 誰もが楽しめる演奏を披露

定期演奏会は、練習拠点である大学会館の和室を会場にして、7月中旬に「浴衣会」、12月中旬に「風花会」を開催している。浴衣会は、全員が浴衣姿でしつとりと演奏するので和情緒たっぷり。風花会は4年生にとって最後の演奏会だ。学内の友人や地域の邦楽愛好家などが来場し、定番の古典曲をはじめ現代の邦楽曲、さらには流行のポップス曲まで披露、幅広い人が楽しめるような内容となっている。

また秋には、鳥大の一大イベント「風紋祭」での野外演奏がある。和楽器は気温や湿度に敏感な上、箏のような大型楽器は移動が大変なので、屋外や大学の外で演奏することは滅多にない。だからこそ風紋祭では、「多くの人に見てもらいたい良い機会」と毎年工夫を凝らす。昨年は吹奏楽部と協演、ソーラン節や最新のポップス、ゲーム音楽など親しみやすい曲目を披露して観客から好評を得た。「またコラボレーションしたい」と、服部さんら部員たちも大きな手応えを感じたようだ。

演奏を通して様々な人とつながり合いながら、自分たちらしく和楽器の世界を楽しんでいる。



Regional Sciences

Engineering

Agriculture

Medicine

『とりりん』の

授業潜入レポート

とりりん記者が取材してきた
授業の様子をご紹介します！

工学部機械物理系学科 2年以上

授業名

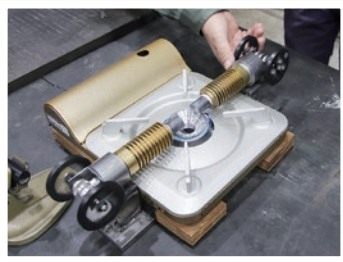
機械工作実習

本授業では、スターリングエンジンモデルの部品製作と組み立てを通じて、旋盤やフライス盤などの各種工作機械の原理および使用方法を理解し、機械製作技術を修得することを目標とします。

また、グループで様々な機械工作法を共同で実習・修得することで、仲間意識を育み、社会で求められる行動力や適応力を身に付けます。



製作したエンジンを評価し合っているよ。
加工と評価を通して、将来図面を書くために
不可欠な加工の知識を身に付けていくよ。



材料から加工して自作した
スターリングエンジン。
温度差で空気が膨張したり
収縮したりする性質を利用して
回転を生み出すエンジンだよ。



これはフライス盤という工作機械だよ。
エンドミルと呼ばれる工具を
高速で回転させて、
金属材料の平面を削り取ることが
できるんだって。

受講した学生の声

寺澤 伊織さん

実習を通して工作機械の扱い方やその
技能を習得することができます。製作した
スターリングエンジンが実際に始動した
ときは大きな達成感と喜びが得られます。



担当教員

工学部機械物理系学科 佐藤 昌彦 教授

地域学部 2年以上

授業名

音楽技能演習Ⅱ

保育者・小学校教員に求められる音楽技能の習得を目的とする授業です。具体的には、ピアノやリコーダーの奏法ならびに声楽について学んでいます。特にピアノに関しては、初心者であっても、両手で、歌唱教材の伴奏ができるように、個別に段階的に指導を行っています。学生たちもピアノ室にあるピアノやキーボードで自主的に繰り返し練習しています。



授業の最初は全員で
先生のキーボードの
演奏に合わせて歌を練習するよ。
この日は「かたつむり」を
音階で歌っていたよ。



先生の個別指導では
「今の良かった、もう一回。」
「もう少しクレシェンド。」
などのアドバイスを受けていたよ。



普段はピアノを弾く
機会がない学生も、
この授業で毎週ピアノの
練習ができるから
嬉しいんだって。



受講した学生の声

宮園 夢月さん

授業ではピアノを中心にリコーダー、声楽
を学びます。先生が一人ひとり丁寧にレッ
スンをしてくださるので、初心者でも楽し
みながら授業に臨むことができます。

担当教員

地域学部地域学科人間形成コース 鈴木 慎一郎 教授

SATREPS スーダンプロジェクト (JST、JICA) 関係者が 学長を表敬訪問 2025.2.12



SATREPS (サトレプス) スーダンプロジェクトのスーダン人関係者が中島廣光学長を表敬訪問しました。このプロジェクトはアフリカの気候に適応できる乾燥・高温耐性で高品質なコムギ品種を開発するとともに、それらを自律的に担う人材を養成し、アフリカの食糧問題解決に貢献するものであり、7年間の期間が満了するにあたり、乾燥地研究センターで開催された最終シンポジウムに合わせて、関係者が来日されました。

表敬訪問では、学長から歓迎の意が述べられ、スーダン農業研究機構のアブデルモネム・ターハ長官から、長年の鳥取大学との交流や当該プロジェクトに対する協力への感謝が述べられました。

令和7年度鳥取大学入学式を挙行

2025.4.5



4月5日に、令和7年度鳥取大学入学式をとりぎん文化会館にて、4月11日に、連合農学研究科入学式を本学農学部にて挙行し、学部生1,189名、大学院生393名が入学を許可されました。

鳥取大学入学式では、大学を代表して原田省学長から式辞が述べられ、続いて、来賓の平井伸治鳥取県知事から祝辞をいただきました。

その後、新入生を代表して、森上沙来 (もりがみ さら) さん (農学部) は、「自分たちの夢や目標に向かって努力し続け、高い倫理観と協働力を持った人材に成長していきたいです」と宣誓しました。

WHAT'S NEW?

大学の動き

在学生の活躍や大学の取組など、
鳥取大学の最新情報をご紹介します。

令和6年度鳥取大学大学院 エンカレッジ・ファンド表彰式を挙行

2025.2.20



令和6年度大学院エンカレッジ・ファンド表彰式を行い、受賞者に中島廣光学長から表彰状が授与されました。

エンカレッジ・ファンドは、特に学業、業績が優秀な大学院博士課程 (後期課程) 学生を対象に、研究意欲の向上と優れた研究の推進を目的として給付する奨励金で、今年度は25名が受賞しました。

学生代表者からは、感謝の言葉とともに「学生として模範となるべく、研鑽を積み重ね、学問の発展に貢献できるよう尽力いたします」と謝辞がありました。



令和6年度 鳥取大学卒業式・学位記授与式



令和6年度 鳥取大学卒業式 学位記授与式



3月7日に、医学部卒業式および大学院医学系研究科学学位記授与式を医学部記念講堂にて、3月10日に、連合農学研究科学学位記授与式を本学農学部にて、3月18日に、鳥取地区卒業式および学位記授与式をとりぎん文化会館にてそれぞれ挙行しました。

令和6年度は、学部1,087名、修士課程 (博士前期課程) 280名、博士課程 (博士後期課程) 46名の計1,413名がそれぞれの課程を卒業または修了し、中島廣光学長から各学部および研究科の総代に学位記が授与されました。また、学業成績が特に優秀な卒業生の表彰も行われました。

鳥取地区卒業式・学位記授与式中島学長は、「卒業生修了生の皆さまには、自分の利益だけを考えるのではなく、常に世のためひとなためという意識を持ち、社会や世界が良い方に変化することで、皆さまにとっても人生が豊かになることを心から願っております」と告示を述べました。

卒業生総代の尾崎貴大さん (地域学部) は、「これから社会に出ることで、葛藤や苦悩を抱えることですが、背景や立場の異なる人々と出会い、対話を重ね、最適解を見出してきた大学生活での経験や学びを成長の糧とし、誰もが生きやすい共生社会の実現のため、日々邁進していきます」と答辞を述べました。





山陰の人と地域を
元気に豊かに、
お客さまの笑顔が
私たちのエネルギー

人を想う。未来を創る。
enetopia

鳥取ガス株式会社
鳥取ガス産業株式会社
鳥取県鳥取市五反田町6番地
enetopia.jp




新卒採用
ITエンジニア
募集中！

**鳥取市で
働き続けられる場所がある**

イサナドットネットは20年以上続くIT企業です

 **イサナドットネット株式会社**



採用サイト

鳥取大学の基金への皆様方のご支援に心より感謝申し上げます。

Many thanks

本学の基金へのご協力に厚くお礼申し上げます。皆様からの温かいご支援のお陰を持ちまして、令和6年度も学生への支援等の事業を実施することができました。ご寄附を賜りました全ての皆様に重ねまして心よりお礼申し上げます。

令和6年度に実施した事業のご報告

【みらい基金】

学生支援事業の一環として、2024年5～6月にボスニア・ヘルツェゴヴィナで開催されたラフティングの世界選手権に参加する探検部の学生に対して、装備の購入費用等を支援しました。学生からは「資金集めの負担が緩和したことで大会に向けての練習時間を確保し、全力で戦い抜くことができた」と感謝の言葉がありました。

大会成績

大会名	IRF World Rafting Championship BANJA LUKA 2024 (5/27～6/2)
チーム	カニカニクラブ（鳥取大学探検部）
成績	ジュニア男子総合2位（5チーム中）



【修学支援事業基金】

奨学生のうち、成績上位者170名を対象に、奨学金として学生1人につき3万円ずつを給付しました。

みらい基金

本学の基本理念に基づく目標の達成のために助成し、もって本学の振興に資することを目的としています。

- ① 教育研究支援事業
- ② 学生支援事業
- ③ 国際交流支援事業
- ④ 地域貢献支援事業
- ⑤ 若手研究者等支援事業
- ⑥ 附属学校園支援事業
- ⑦ その他

修学支援事業基金

経済的理由により修学が困難な学生を支援することを目的としています。

- ① 授業料等免除事業
- ② 奨学金事業
- ③ 留学支援事業
- ④ TA・RA事業
- ⑤ 留学生受け入れ環境整備事業
- ⑥ 障害のある学生等に対する修学支援事業

鳥取大学では、学生・若手研究者等支援、教育研究、国際交流および地域貢献などの事業を支援するため、基金を設置しています。

ご寄付に関するお問い合わせ

国立大学法人 鳥取大学 総務企画部 総務企画課
〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南4-101 Tel 0857-31-5006

★詳しくは・・・

鳥取大学の基金



最後までご覧いただき、ありがとうございます。
この4月から、原田省学長をトップとした新体制での大学運営がスタートしました。そこで今回は原田学長と全学部の学部長との座談会を特集として企画しました。鳥取大学の基本理念である「知と実践の融合」のもとに進めている多様な取り組みを、教育・研究、地域貢献の面から語り合っていたきました。学部ごとの特色ある取り組みはもちろん、大学と地域との関わりや今話題の教員養成の話もあり、興味深い内容となっています。何より、「自ら輝き、魅力あふれる鳥取大学にしたい」という原田学長の熱い思いが少しでも伝わればと思います。読者の皆様には、この特集をきっかけとして、これから鳥取大学がどのように変わり、どのように進んでいくのか、見守っていただければ幸いです。

鳥取大学では、これからも様々な情報を発信していきます。これからの誌面づくりのため、皆様のご意見をお寄せください。引き続きご支援をお願いいたします。

編集後記
EDITOR'S NOTE